

シリーズ

町長室からの便り

年頭雑感

1月号広報あさひの年頭あいさつで「希望のもてる年にしたい」と述べさせて頂きましたが、昨年は当初から、原油の高騰が止まることなく、株価は逆に下がり続け、アメリカ発の金融危機はまさに秋の落日のごとく一気に世界を厳寒へと導きました。

以降はご承知のように、連日、雇用不安で先行きの見えない生活不安が押し寄せています。

役場では例年の如く始まった予算編成ですが、担当課長の胃が痛む時期と思います。特に21年度は、幼保一体化施設の建設で大きな財政支出があり、財政調整基金もピンチの状況となります。

ピンチの時こそチャンスと言われるものの、明るい話題が少ないだけに、「あるものさがし」の年となりそうです。

箱根駅伝、柏原選手の健闘

毎年の様に楽しみにしている箱根駅伝、今年のヒーローは何といつても5区の東洋大の柏原選手だと思います。あの急坂をものともせず駆け抜け、トップとの差は5分、おそらく5区は各々のチームも相応の選手をエントリーしているはずですが、しかし、4区からのタスキを受けた瞬間から柏原選手は、必ずトップを奪い取る強い意志を人一倍持ってスパートしています。正直どこまでスパートがもつのか素人判断で思っていました。

結果、まさにピンチをチャンスに変えましたが、それを可能にする努力は大変なものがあったのだと思います。何か勇気を頂いた思いでもありました。

新しいものづくりにチャレンジ

今年度政府は、将来の新しい製品の研究開発に、さかのぼって資金を援助すると発表しました。例えば、新型インフルエンザを素早くキャッチする装置や燃料電池に必要な白金を削減する素材の研究、開発などを支援するといつことですね。

将来の産業、経済を高めて行く上で不可欠なものです。

昨年、県と四日市と(財)三重県産業支援センターが共同して高度部材イノベーションセンターが設立されました。このセンターの主な事業内容は、地域産業の技術の高度化や新事業創出、人材育成などに取組むことです。早速、役場の担当者が見学してきました。具体的にとどの様な研究を進めているのか、中小企業の方々が実際に利用する場合、使い勝手はどうかを知るための見学です。

こんな時代だからこそ将来のために、「産」「学」「官」が力を合わせる時だと思えます。

元気な朝日町に白羽の矢

全国で始めて「合併をしない宣言」を行った矢祭町は皆さんもご承知だと思いますが、同じ様に頑張っている町村が交流する「全国小さくても輝く自治体フォーラム」が開催されて、今年2月で12回を迎えています。

真の地方分権とは何なのか問い続け、住民との協働のまちづくりを実践してきた小さい町村の戦いは、一方的に地方交付税を減額しようとする政府のたくらみを打ち砕いて自立のまちづくりを前進させてきました。

全国50を超える町村長の呼びかけにに応じ、70町村長300人を超える関係者が集う開催地は、これまでまちづくりでそれぞれ特色があり、いわば全国版でした。

光栄にも朝日町に開催地の検討がされています。開催には、皆様の協力なしに迎えることはできません。開催地を目指し頑張ろうと思えますので、その際にはよろしくお願ひします。

シリーズ / 教育委員会だより

「職場体験学習」を終えて ～朝日中学校の取り組み～

朝日中学校では、毎年2年生を対象に総合的な学習の時間を活用して職場体験学習に取り組んでいます。

これは、実際に「働くこと」を体験し、「働く人」に接することを通して、働く喜びや厳しさを知ること、また社会的なマナーや場に応じた言動を身につけることなどを目的に、これまでの自分の生き方やこれからの進路について考えるきっかけとなる学習と位置づけて取り組んでいます。

今年度は、2年生63名が朝日町及び近隣地域（桑名市、川越町、四日市市富州原・富田地区）にある24の事業所にお世話になりました。保育園や幼稚園、社会福祉協議会等の公共の施設、コンビニエンスストアや食品会社、書店、部品工場など業種も多岐にわたっています。これまで「仕事」「働く」という経験のない生徒にとっては、わずか2日間の体験ではありますが有意義な時間となったようです。

生徒からは「学校や職場の違いがよくわかった」「朝日町内の人たちと触れ合えてよかった」「お父さんやお母さんに『お疲れ様でした』と言いたい」などの感想も聞かれ、「働くこと」についてより深く考えるよい機会となったようです。

朝日中学校では今月、職場体験学習報告会を開き、この貴重な体験を通して学習したことについて互いに交流する予定です。

